

# WICIシンポジウム (Session 5)

2019年 11月24日

経済産業政策局 産業組織課

# コーポレートガバナンス改革の進捗と課題

- 「コーポレートガバナンス・コード」により、社外取締役の選任を中心にコーポレートガバナンス改革は着実に進展。また、「スチュワードシップ・コード」でエンゲージメントも積極化。
- 持続的成長のための経営改革につなげるため、「形式から実質へ」の深化が課題。

「日本再興戦略」改訂 2014（抜粋）

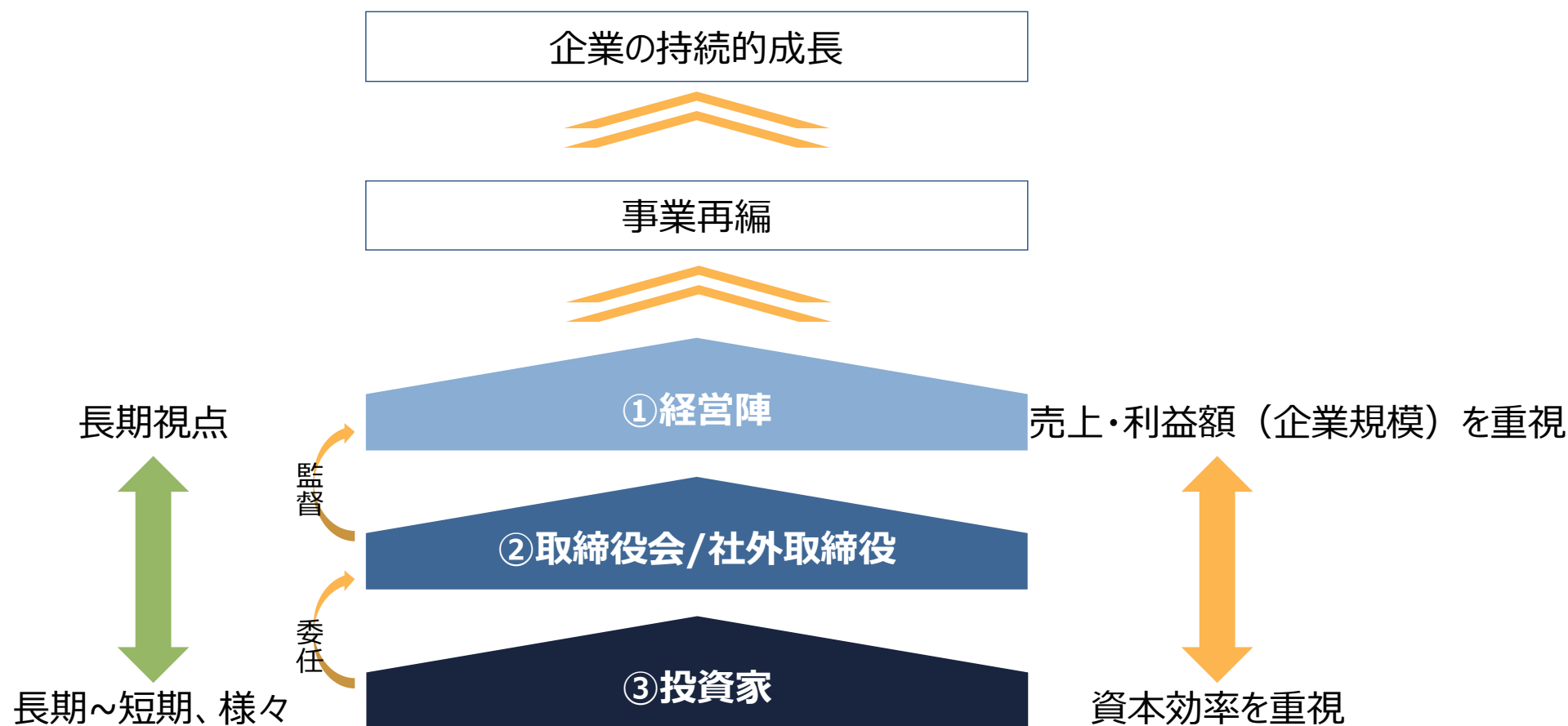
「日本企業の「稼ぐ力」、すなわち中長期的な収益性・生産性を高め、その果実を広く国民（家計）に均てんさせるには何が必要か。まずは、コーポレートガバナンスの強化により、経営者のマインドを変革し、グローバル水準の ROE の達成等を一つの目安に、グローバル競争に打ち勝つ攻めの経営判断を後押しする仕組みを強化していくことが重要」

2名以上の独立社外取締役を選任する上場会社  
(東証一部) の比率推移

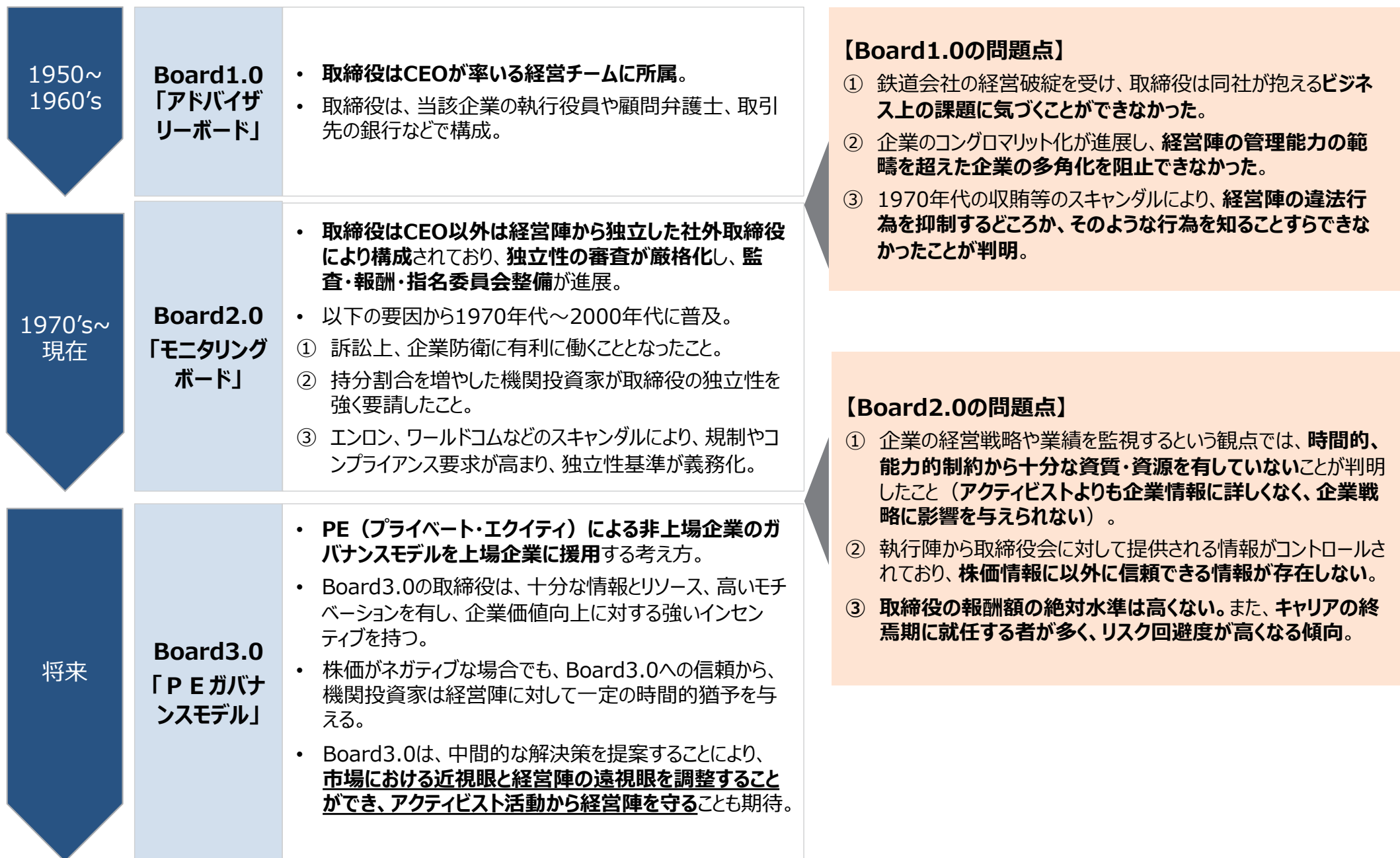


# コーポレートガバナンス改革の今後の課題

- グローバルな競争環境の急激な変化の中、日本企業の持続的成長を実現するには、事業再編の促進が課題。
- こうした観点から、①経営陣（マネジメント）、②取締役会（特に社外取締役）、③投資家（エンゲージメント）の各レイヤーにおいて、適切なインセンティブを働かせつつ、エンゲージメントを実質化して（成果につなげて）いくことが課題。



# (参考) 「Board 3.0」 (米国における取締役会の在り方に関する議論の進展)



(注釈) 『Board3.0-An Introduction』 (Ronald J. Gilson, Jeffrey N. Gordon) を基に経産省にて作成。